

令和4年度  
自己点検評価書  
[自己点検・評価委員会]

令和5（2023）年9月  
大阪人間科学大学

## 目 次

基準	タイトル	頁
基準Ⅰ	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	1
基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	2
基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD委員会）	4
基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）	7
基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	8
基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	9
基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）	11
	エビデンス一覧	

基準 I	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
------	------------------------------

◆評価基準

- ① アドミッション・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜が実施されている
- ③ 選考要項が整備され、公表されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①アドミッション・ポリシー（以下 AP）については、「大学案内」「ホームページ」「学生募集要項」等において「求める学生像」「高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目」「各学科・専攻の求める学生像」を掲載し周知している。
- ②入学者選抜においても AP に合致する学生を受入れるための選抜方法を設定している。面接試験を課す入試では AP に関連した内容の質問を行い、AP を理解できているかを確認している。
- ③選考要項については、すべての入試種別について学生募集要項として冊子等にまとめ公表している。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 大学案内
2. ホームページ
3. 学生募集要項

◆自己点検評価結果における課題と対応

今後も引き続き、入学者選抜において各入試種別毎の特長を踏まえた、多面的、総合的に評価を行い、AP との整合性を確認していく。

基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	-----------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①ディプロマ・ポリシーを具体化するために、教育課程編成方針を「カリキュラム・ポリシー」として定め、学生便覧やホームページに明示している。

②教育課程は大きく、全学共通の「基礎科目」と、それぞれの学科の「専門科目」から構成される。基本的には、「基礎科目」で対人援助の専門職業人となるべき基礎を固めた上で、「専門科目」で専門職となるための知識・技術を専門的に学ぶ。また、学科ごとに「カリキュラムマップ」の作成を行い、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの要素と関連しているかを明確にするとともに、ナンバリングを付して4年間の学びのルールを明らかにしている。学生には、学修成果に基づき作成した「カリキュラムツリー」を用いて教育課程の説明を行い、それぞれの目指す進路に応じた「履修モデル」を提示し、履修登録指導を実施している。なお、「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」「履修モデル」はいずれも「ユニバーサル・パスポート」及び本学 web サイト上で、学生がいつでも確認できるよう公開している。

授業時間内には「学修ポートフォリオ（振り返りシート）」を実施している。これは、授業終了時に学生がその授業のまとめや意見等を記入し、その後、担当教員がチェック・添削等をした上で翌週学生に返却するものである。令和4年度には「ユニバーサル・パスポート」を活用した振り返りシートの学生と教員間の双方向のやり取りについての運用マニュアルを作成し、専任・非常勤教員に案内した。

また、新型コロナウイルス感染症対策で培った遠隔授業等のノウハウ及び学内の Wi-Fi 機能の活用方法を検討し、平時の授業時において各学科・専攻で取り組まれている ICT を活用した教育実践例を一覧にまとめ、共有を図った。ICT 活用については、各教室に設置されているカードリーダーを使用した授業の出席登録についても、令和5年度からスマートフォンで出欠を取る新システムの導入を決定し、スマートフォンを活用して「ユニバーサル・パスポート」での

出席管理がスムーズにできるように整備した。

令和 6 年度からの基礎科目のカリキュラムを検討し、IT パスポート（国家資格）の資格取得を視野に入れた情報処理系の科目の新設を決定した。また、学生が学びながら成長を実感できる科目として、「社会と共生Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を新設し、学部横断的だけでなく、年次の縦断的な授業展開のもと、それぞれの年次で異なる到達目標に同時に取り組むことができるようにカリキュラムを整えた。

令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症の状況や学生の学修支援を行いながら全学的に対面授業を実施し教育の質の維持向上に努めた。

③IR 情報の活用については、成績発表時に、年次別・学科別の GPA 分布図を公表し、学生個々の学修状況、学科ごとに対比した GPA を教員が把握することで学習指導に役立てられるようにしている。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 3 学部と各学科・専攻の 3 ポリシー
2. カリキュラムマップ
3. カリキュラムツリー
4. 履修モデル
5. シラバス
6. 学修ポートフォリオ
7. 「ユニバーサル・パスポート」を活用した授業の振り返りについて（マニュアル）
8. GPA 分布状況表

◆自己点検評価結果における課題と対応

令和 2 年度からの新カリキュラムの完成年度を迎えるに当たり、令和 5 年度から導入する 6 時限目の授業を含めて、学生の授業外学修や自学自習時間の観点からも検証し、より学修成果が得られるような効率的かつ適切な運用を検討する必要がある。また、平時における ICT を活用した教育の質の充実に向けた取り組みとともに、ChatGPT 等の生成系 AI に対する取り扱いについても検討を要する。

基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD委員会）
-------	--------------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教員組織となっている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うためのFD活動が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシーは、学生便覧及び本学HP上に明文化されたものが公表されている。

②大学設置基準を満たした教員組織となっている。また、本学で取得可能な資格・免許に関する養成課程はすべて学校・養成所指定規則等を満たしており、対人援助の専門職業人を養成することが可能な教員組織となっている。

③ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく授業改善をはじめ本学の教育力の向上を目指したFD・SD活動として、以下の活動を行った。

令和4年度においてもピア・レビュー活動の一環として「授業の相互参観」を実施した。年間計画の段階では、本学の教員のニーズに基づくFD・SD活動という位置づけで「学びへの動機付け」と「アクティブラーニング」の2点をテーマとして実施することとしていた。しかし、今年度は実施方法を対面での参観と動画記録の視聴というハイブリット形式に変更したため、授業提供教員に対して本テーマに基づく内容を求めることはせず、授業相互参観の目的を「対面による全学的な授業相互参観の実施と、授業は公開されるものという意識を高める」と設定した。コロナ禍以前に実施していた対面による授業相互参観では専任全教員が参加し学科を越えてランダムにペアを作成して実施していたが、この方法における主な問題点としては、ペアになった教員間でスケジュールが合わず実施が困難となる、あるいは参観したい授業が参観できないというケースが生じていた。そこでこうした問題点の解消をめざして、ハイブリット形式で実施することにした。本方式においても、原則は対面での参観であり、都合が合わない場合に授業動画を視聴することとした。したがって、「見て欲しい授業をみてもらい」「見たい授業が見られる」ということが可能となる。参観授業の提供に関しては、年間を通して全教員が提供できる仕組みを数年内には完成させる予定にしているが、今年度においては、各学科・専攻から最低1名以上の授業提供者を選出してもらうことにした。実施期間は令和4年11月1

日から令和5年2月17日までであり、全学部全学科専攻から計17科目の授業が提供された。また、結果として、提供された授業は当初予定していた「学びへの動機付け」と「アクティブラーニング」の2点のテーマを中心とするものとなった。

次に、FD・SD委員会における新生5ヵ年計画にしたがい、教育評価に関するFD・SD活動を実施した。具体的には、「学生からの授業評価アンケート」及び担当科目の「成績実態に関するデータ」という、教育評価に関する2つのデータに基づき振り返り（リフレクション）を行い、次年度における授業改善計画を立案するというものであり、本年度前期から実施することができた。成績実態に関するデータは全教科目のデータを学内公開としたため、教員は担当する教科目の成績実態を相対化することが可能であり、学修成果データに基づく授業改善を行うことができた。さらに、1月から2月にかけては、東北大学を代表校とし熊本大学、大阪公立大学、立教大学の計4大学が連携して開発した「大学等における教育FD動画コンテンツ」の「学習評価論」（講師：京都大学教授松下佳代氏）を用いてのFD・SD研修会を実施した。2月28日には、同テーマで、本学教授岡田雅樹氏を講師として対面での研修会を実施した。

その他、定期的に取り組んでいるFD・SD活動としては、下記2点の活動を行った。まず、新任教員を対象とした「オリエンテーション研修会」を4月に開催した。2点目は、シラバス点検活動である。本活動は令和元年度からFD・SD活動の一環として位置づけて取り組んでいるものであり、活動の趣旨は第三者によるシラバス点検を行うことによってより良いシラバス作りを行っていくことではあるが、下記の効果を目指した活動でもある。1つは、他者の作成したシラバスを点検することによって、点検者自身がより良いシラバス作りの観点と方法を学習し、学科・専攻内の教員に対して助言可能な力量を形成すること。もう1つは、学科内の開講科目の内容、方法、到達目標を理解することによって、カリキュラムに対する理解を深め、カリキュラムレベルにおける教育改善に繋げていくことである。

本年度における主たる活動は以上であり、学修者本位の教育の確立に向けてのFD・SD活動を実施することができた。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 授業評価アンケート
2. 令和4年度「FD・SD研修会」実施記録（①ビデオ教材、②対面研修会）
3. 令和4年度「授業相互参観」実施記録
4. 令和4年度「新任教員オリエンテーション研修会」実施記録
5. 令和4年度「シラバス点検」実施記録

◆自己点検評価結果における課題と対応

今後の課題は以下の2点となる。1点目は、令和4年度から導入したハイブリット形式での授業相互参観の実施方法を改善していきながら、本学が直面している授業改善に関する課題や、個々の教員のニーズに応えることができるものにしていく。

2点目は、学生の学習行動に関する実態等について明らかにすることができる調査を実施予定であったが、実施することができなかった。現在、準備を進めているところであり、令和5年度には、本調査結果に基づき、学生の学習習慣の定着に関する要因を探り、主体的に授業外学習時間を増加させていくことができる授業作りについて検討していくことにしている。

また、令和5年度は新生5ヵ年計画の最終年度となるため、この5ヵ年の活動に対する評価を行い、次期中期計画を立案していく。

基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）
-------	---------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育設備が整備されている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための教育設備整備計画が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシー（以下CP）については、各学部・学科ごとに明文化され、学生全員に配付する「学生便覧」や、全てのステークホルダーが閲覧可能な「ホームページ」にも公表している。

②教育設備の整備やメンテナンスについては法人本部が一括して管理しているが、事務局においてはCPに適した教育設備や環境が整備されるよう適切に計画を立案し、随時見直しを行っている。特に国家資格対応の学科においては、指定規則やガイドラインに定められた基準を遵守し、教育目標達成のために適切に管理・運営を行っている。

③令和4年度は、大教室においてプロジェクター投影資料が見易くなるよう中間モニターの増設工事等を実施した他、令和6年度に設置を予定している「社会創造学科」における表現スキルを養うための演習設備を整備する改修工事を開始するなど、CPに適した教育を行うために計画的な教育設備の整備を実施している。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 「2022 学生便覧」

◆自己点検評価結果における課題と対応

新学科設置に対応した教育設備の整備対応を含め、今後も各学科の教育目標達成に向けた教育設備の整備を行うとともに、全学的には平時の授業時においても Wi-Fi と ICT を活用した授業の充実に向けた取組みを進める。また、国家資格対応の学科においては、今後も指定規則やガイドラインに定められた教育設備を整備し、各種教科目の授業に支障が生じないよう計画的に管理・運営を行う。

基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 入学者の追跡調査等により入学者選抜方法の妥当性が確認されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①ディプロマ・ポリシー（以下 DP）については、「大学案内」「ホームページ」において明文化し幅広く公表している。

②DP に沿った人材を育成するためにカリキュラム・ポリシーが定められ、それに基づきアドミッション・ポリシー（以下 AP）が策定されていることから、入学者選抜においては、入試種別毎の特長を踏まえ多面的、総合的に評価を行い AP との整合性を確認するなど、DP に適した学生を受入れるための選抜方法を設定している。

③AP においては高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目も明文化し、そこには DP で定めているコミュニケーション能力やその基礎となる語学力（国語力）を有していることとしている。これらの入学者選抜方法の妥当性を確認するため、入学者の追跡調査を行っている。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 入試種別毎の GPA 分布
2. 入試種別毎の単位取得状況
3. 入試種別毎の中退状況

◆自己点検評価結果における課題と対応

入学後の追跡調査によると、2019 年度入学の入試種別毎の卒業率に大きな違いはないものの、中退者は一般選抜（共通テスト含む）でやや高く、留年者は指定校でやや高い傾向が認められるため、今後分析を行い、入試種別毎に DP に適した入学者選抜方法の妥当性の確認を実施していく。

基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている  
 2: 基準を概ね満たしている  
 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①本学は、教育理念である「自立と共生の心を培う人間教育」のもと「人間性豊かな幅広い知識を持った専門職業人」を育成することを教育目標としている。この教育目標は「ディプロマ・ポリシー」に反映され、学生便覧やホームページに明示している。

②単位の認定、卒業・修了要件については学則で定められており、適正に運用されている。成績評価、進級条件、キャップ制、GPA の活用も「大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則」「大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程」「大阪人間科学大学 試験内規」に定められており、適正に運用されている。令和4年度はコロナ禍における体調不良者への追試験対応や導入3年目を迎えた定期試験再試験についても適切に実施し、例年と異なる対応であったが大きな混乱なく完了した。学生には学修成果に基づき作成したカリキュラムツリーを用いて教育課程の説明を行った。また、各学部・学科の教育課程で、それぞれの授業科目でどのような学修成果が得られるのか、その学修成果がディプロマ・ポリシーとどのように関連しているかを学生が理解できるものとしての「カリキュラムツリー」や、学生それぞれの目指す進路に応じた「履修モデル」を活用することで履修指導をより充実したものとした。

また、学生の経時的な変化を把握しながら4年後にディプロマ・ポリシーへ到達できる「OHSポートフォリオシステム」（ディプロマサプリメント）についても導入4年目が経過し、初めて入学から卒業までの一貫した活用が実現した。

③IR情報の活用の取組としては、前後期の成績発表時に年次別、学科別のGPA分布図を公表することで、個々の学生が全体の中で自分自身の位置づけが確認できるように学修状況の可視化ができています。

◆自己点検評価結果のエビデンス（※以下は例示項目）

1. 3学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. 大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
3. 大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
4. 大阪人間科学大学 試験内規
5. 大阪人間科学大学 OHS ポートフォリオ
6. GPA 分布状況表

◆自己点検評価結果における課題と対応

カリキュラムツリー、カリキュラムマップ、履修モデル、年次別・学科別の GPA 分布一覧、成績評価等の学生の個別のデータを一元化し可視化できるシステムを検討し、中退防止の観点からも教職員が活用し、学生の課題の確認や学生をフォローできる体制を検討する必要がある。
---

基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検 (キャリア開発委員会)
-------	---------------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している社会との接続が実施されている

◆自己点検評価 (該当数字を○で囲む)

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①について大学 HP、大学案内等に公開し、周知を図っている。また学生には新入生対象のガイダンスやオリエンテーション等の行事を通じて説明している。

②については、各学科・専攻の学びや専門性を活かした進路選択をする学生の割合が高く、社会に必要とされる人材を輩出していると言える。

◆自己点検評価結果のエビデンス (※以下は例示項目)

1. <b>就職率</b> 98%
2. <b>専門職化率</b> 社会福祉学科：84%、介護福祉専攻：89%、視能訓練専攻：100% 子ども教育学科：87%、言語聴覚専攻：100%、理学療法学科：100% ※専門職化率＝就職者のうち、資格を活かし専門職として就職した者の割合
3. <b>国家試験合格率</b> 令和5年3月卒業者の各国家試験の合格率は以下のとおりである。 社会福祉士：52.4%(44.2%、65.0%)、精神保健福祉士：71.4%(71.1%、78.8%) 介護福祉士：100%(84.3%、75.6%)、視能訓練士：95.0%(89.3%、93.7%) 言語聴覚士：100%(67.4%、86.8%)、理学療法士：96.7%(87.4%、94.9%) ※カッコ内は 前：全国平均合格率、後：4大新卒平均合格率

◆自己点検評価結果における課題と対応

エビデンス3に記載の通り、全ての国家試験において全国平均を上回る結果となった。4大新卒平均を超えるべく引き続き国家試験対策を実施していきたい。また受験者の母数を引き上げることも合わせて取り組んでいく。

各学科／専攻において早期より国家試験対策に取り組んでいるが、学生間の連携（自主的な勉強会の開催、上級生から下級生への指導等）を深めることも課題の一つである。全学国試対策プロジェクトを通じて、学生指導の更なる向上に取り組んでいく。

## エビデンス一覧

基準	タイトル
基準Ⅰ	大学案内
	ホームページ
	学生募集要項
基準Ⅱ-1	3学部と各学科・専攻の3ポリシー
	カリキュラムマップ
	カリキュラムツリー
	履修モデル
	シラバス
	学修ポートフォリオ
	「ユニバーサル・パスポート」を活用した授業の振り返りについて（マニュアル）
GPA分布状況表	
基準Ⅱ-2	授業評価アンケート
	令和4年度「FD・SD研修会」実施記録（①ビデオ教材、②対面研修会）
	令和4年度「授業相互参観」実施記録
	令和4年度「新任教員オリエンテーション研修会」実施記録
令和4年度「シラバス点検」実施記録	
基準Ⅱ-3	「2022 学生便覧」
基準Ⅲ-1	入試種別毎のGPA分布
	入試種別毎の単位取得状況
	入試種別毎の中退状況
基準Ⅲ-2	3学部と各学科・専攻の3ポリシー
	大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
	大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規定
	大阪人間科学大学 試験内規
	大阪人間科学大学 OHSポートフォリオ
	GPA分布状況表
基準Ⅲ-3	令和4年度 卒業者就職率
	令和4年度 就職者専門職化率
	令和4年度 国家試験合格率

令和4年度  
外部評価報告書

令和5（2023）年9月  
大阪人間科学大学

外部評価委員

氏 名	職 名
はし おだに とも や 箸尾谷 知也	摂津市教育委員会 教育長

## 外部評価議事要旨

日 時：令和5年9月25日（月）10:30~11:20

場 所：摂津市役所 教育長室

出席者：

（評価員） 箸尾谷委員

（本 学） 井上学長

藤田大学事務局次長

西田大学事務室長

### 1.令和4年度自己点検評価について

藤田大学事務局次長から資料に基づき自己点検評価についての説明が行われ、意見交換の後、箸尾谷委員から、「授業評価アンケートにおいて、「授業や教員の教え方について」の評価が高いことは、日々の教員の授業改善の取り組みの成果と考えられ高く評価できる」との感想が述べられた上で、「大学において十分に自己点検評価が行われており妥当である」との外部評価を受けた。

以上